

基本評価シート

(茨城県 県民生活環境部環境政策課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等事業実施計画策定		
	指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等事業		
都道府県名	茨城県	担当者部・係名	県民生活環境部 環境政策課 自然・鳥獣保護管理 G
担当者名	山口	担当者連絡先	029-301-2946
捕獲実施事業者	一般社団法人茨城県猟友会 (認定を受けている)・受けていない)	予算額（※2）	29,033,000 円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	5,610,000 円

（※1）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3）予算額の内、捕獲に要する経費は、平成 28 年度から適用される交付金所要額調書様式 1－2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和 6 年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
捕獲目標頭数 5 頭	1 頭	20%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
—	—	—
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
0 頭 (R5 年度)	2 頭 (R5 年度)	0 頭 (R5 年度)
0 頭 (R4 年度)	0 頭 (R4 年度)	2 頭 (R4 年度)

※許可捕獲(個体数調整)に指定管理鳥獣捕獲等事業の捕獲を含む(R4：2 頭、R5：0 頭)

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

なし

2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	記述欄：近年、ニホンジカを目撃が増えており、定着の可能性が高まっていることから、更なる生息域拡大や被害を未然に防止するため、特定計画に基づき「指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画」を策定し、県による捕獲等を実施する。 【選択欄】 ☐ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。 ☒ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行った。 ※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。
人材育成の観点	☒ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和6年12月～令和7年2月 (うち、捕獲を行う期間：上記期間のうち延べ30日間)
実施区域	大子町(八溝山)
関係機関との協力	大子町
事業の捕獲目標	(20%達成) = (1頭 実績値) / (5頭 目標値)
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃 ☐ 巻き狩り ☒ 忍び猟 ☐ モバイルカリング ☐ 夜間銃猟 ☐ その他 (止めさし) 【わな猟】 ☒ くくりわな ☒ 箱わな ☐ 囲いわな ☐ その他 ()
捕獲個体の確認方法	☐ 個体の身体の一部(耳、尾など) ☒ 写真(詳細を記載：個体番号を記載した看板等と共に撮影) ☐ その他 ()
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☒ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☐ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。 わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☒ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：実施区域においてツキノワグマ等大型の哺乳類は確認されていない。中小型の哺乳類の錯誤捕獲防止対策として、くくりわなには締め付け防止金具を設置することで、脚の径が一定以下の動物は捕獲されないようにしている。また、捕獲期間内であっても見回りができない時はわなの仕掛けを解除することとしており、不用意な捕獲を防止している。) ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。

	鉛製銃弾について ☒ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☐ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	捕獲事業開始前に地域住民等に対して事業内容等を周知し、事故無く、捕獲等事業を行うことができた。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：6 人 （内訳） 正規雇用者：（不明）人、期間雇用者：（不明）人、日当制：（不明）人

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評価：目標5頭に対して1頭捕獲し、目標達成率は20%であった。 低密度地域であるとともに、シカの警戒心も強く、目標達成には至らなかった。
	改善点：捕獲手法やわな設置箇所を見直すなど、捕獲頭数の目標頭数を捕獲できるよう検討する。
【実施期間】	評価：大子町と協議し、有害捕獲との棲み分けを行っている。
	改善点：継続して実施する。
【実施区域】	評価：有害捕獲との棲み分けを行っている。
	改善点：有害捕獲との棲み分けを継続して実施する。
【捕獲手法】	評価：忍び猟により1頭捕獲した。
	改善点：低密度地域であるため、捕獲手法について検討が必要である。巻狩りによる捕獲や囲いわなによる捕獲など、地域に合った手法を検討する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：適切な時期に発注ができ、十分な体制で捕獲が実施できた。
	改善点：継続して実施する。
【個体処分】	評価：捕獲個体は、焼却により適正に処分した。
	改善点：継続して実施する。
【環境配慮】	評価：一般に利用される道や人の出入りの多い場所から見える地点にわなを設置しないなどわなの設置場所に配慮するよう周知した。また、錯誤捕獲があった場合はイノシシを除き原則放獣することとしている。
	改善点：継続して実施する。
【安全管理】	評価：見回りは複数人で実施するなど、作業開始時に安全確認のための注意喚起を実施している。
	改善点：継続して実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
特になし。	
4. 全体評価	
指定管理鳥獣捕獲等事業1年目、かつ低密度地域でありながら、ニホンジカを捕獲することができたものの、捕獲数については、令和6年度の事業の目標捕獲頭数は達成でき	

なかった。

しかし、安全に捕獲作業が実施されたことや、低密度地域であっても、一定の捕獲圧をかけることが出来たことは評価できる。

今後も、効果的な捕獲手法を検討していく必要があることから、目標に対して適切な場所や手法で捕獲が実施されているか、捕獲従事者との積極的な情報共有を行っていく必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

茨城県ニホンジカ管理方針（第一期）においては、ニホンジカの生息状況や農林業等への被害状況などを適切にモニタリングすることにより、メスが定着し、繁殖することによる個体数の増加を防ぐこととしている。

モニタリング結果等を踏まえ、メスの出現頻度が高い地域である大子町において、本事業を実施した。

ニホンジカの生息が増えつつある区域で、捕獲が行き届かない範囲を補うために実施しており、捕獲数は少ないものの、捕獲強化に寄与したと考える。

4. 必須となる記録項目

（１）データの整備状況

ア）基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☐ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☒ 5 km メッシュ ☐ 1 km メッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報 (体重、体長、メスの場合は胎児の有無、胎児数など)	
③目撃数	☐ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数※	

	☒ わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	
--	--	--

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック				
捕獲位置の地図	☒ 5 kmメッシュ地図	☐ 1 kmメッシュ地図	☐ 地点（緯度経度）地図		☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☒ 5 kmメッシュ地図	☐ 1 kmメッシュ地図	☐ 地点（緯度経度）地図		☐ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☐ 5 kmメッシュ地図	☐ 1 kmメッシュ地図	☐ 地点（緯度経度）地図		☒ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	なし。				

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

（２）実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 35 人日

事前調査人日数概数※2： 5 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 30 人日

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	30 人日	-人日	☒ 増加 ☐ 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1：137 人日

事前調査人日数概数※2：9 人日

出猟（捕獲作業）人日数：128 人日

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	384 基日	0 基日	☒ 増加 ☐ 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	1 頭	-頭	☒ 増加 ☐ 減少
② 目撃数	4 頭	-頭	☒ 増加 ☐ 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	100.0% (1 頭／1 頭)	-	☒ 増加 ☐ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0% (0 頭／1 頭)	-	☒ 増加 ☐ 減少

令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
☐ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 忍び猟	1 頭	30 人日	0.033 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少	0.133 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少
☐ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	0 頭	-頭	☐ 増加 ☐ 減少
② 雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	-	-	☐ 増加 ☐ 減少
③ 幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	-	-	☐ 増加 ☐ 減少

令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
☒ くくりわな	0 頭	320 基日	0 頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 箱わな	0 頭	64 基日	0 頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数：5 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 0 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲個体の写真による確認。

捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。